

マテリアリティ 15

人権の尊重

重要課題のマネジメント

重要課題への設定理由	<p>当社は事業活動を通じ人々の人権が尊重される社会の実現に取り組む責務があると考え、人権リスクマネジメントの強化に取り組んでいます。</p> <p>また、必要な医療にアクセスし、健康に生きる権利は人権課題と認識しています。課題解決能力を有する製薬企業としてこの課題に最大限貢献する責務があると考えています。</p>
中長期の目指す姿	<p>【人権リスクマネジメント】 小野薬品グループでの人権リスク管理体制が構築され、事業活動における人権の負の影響が最小化されている。</p> <p>【医療アクセスの改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●希少疾患や小児疾患に対して革新的医薬品を届ける。 ●医療インフラの未成熟な地域のローカルキャパシティビルディング※に貢献する(NPO / NGOとの協業で実現)。 <p><small>※ 課題を抱える地域が、自らの力で課題を克服できるよう、医療人財育成や医療システムの構築などの支援を行うこと。</small></p>
指標	<p>【人権リスクマネジメント】(～2026年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当社グループ内部の人権デューデリジェンス実施 ●優先度の高いサプライヤーに対する人権リスクアセスメントの実施 <p>【医療アクセスの改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●希少疾患／小児適応の承認取得数 ●プロジェクトのアウトカム目標(2022年度に新プロジェクト開始)
主な取り組み	<p>【人権リスクマネジメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人権デューデリジェンスの実施 <p>【医療アクセスの改善】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アンメットメディカルニーズの高い希少疾患や小児適応に対して新薬開発・適応拡大 ●NPO / NGOと協業し、医療インフラの未成熟な地域のローカルキャパシティビルディングを支援

人権に対する考え方

当社は国内外を問わず、あらゆる事業活動において、すべての人々の人権やお互いの多様な価値観、人格、個性を理解・尊重し、行動します。こうした考えのもと、社内外を問わず人種、国籍、民族、性別、年齢、肌の色、宗教、信条・思想などによる差別、嫌がらせなどを禁止し、人事制度の構築や運営を行っています。また、あらゆるハラスメントを禁止するとともに、コンプライアンス研修を実施しています。

さらに、当社は、国連グローバル・コンパクト(UNGC)加盟企業としてUNGCの10原則を支持するとともに、「世界人権宣言」や「市民的及び政治的権利に関する国際規約」「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」、国際労働機関(ILO)の「労働における基本的原則および権利に関する宣言」、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を尊重し、これら国際規範に準拠した人権尊重の取り組みを行っています。

Web 小野薬品人権グローバルポリシー
https://www.ono.co.jp/company/policies/human_rights.html

人権デューデリジェンスへの取り組み

当社は国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に従い、自社が社会に与える人権への負の影響を防止または軽減するために人権デューデリジェンスの仕組みを構築し、継続的に実施しています。

当社は、サプライチェーン上重要な取引先のCSRの状況を客観的および継続的に把握するため、EcoVadis社のCSR評価システムを活用しています。本システムの活用により、1年に1回以上の頻度で取引先のCSRマネジメントに関して信頼性の高い情報を得ることができるとともに、取引先に対して適切な是正措置を提案することができます。なお、2021年度の評価においては、CSR高リスクに該当する企業はありませんでした。また、2022年度より包括的な人権デューデリジェンスを実施します。

医療アクセスの改善

医療の発展が目覚ましい現代においても、有効な治療法が存在しない疾患が多くあります。また、低所得国および低中所得国など

では、医療インフラの未整備や貧困などが原因で、必要な医療を受けることが困難な方が多くいます。当社は「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念のもと、「革新的な医薬品の研究開発」「医療基盤改善」「外部とのパートナーシップ形成」に取り組むことにより、人々の医療アクセスレベルの改善を目指しています。

現在、日本、韓国、台湾で医薬品の自社販売を行っており、日本をはじめとするアジアにおいては、希少疾病医薬品を含め医療アクセス改善に取り組んでいます。その他の地域においては、パートナー会社を介して医療用医薬品を提供しています。また、NPOや公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金とのパートナーシップにより、医療教育や医療基盤整備などの中長期的な医療システム強化支援に取り組んでいます。

【取り組みの方針】

- いまだ医療ニーズが満たされない疾患、希少疾患や難病への研究開発の推進
- 医療基盤が未成熟な国、地域における、現地の医療教育、医療者育成、医療備品の充実
- 外部とのパートナーシップによる医療システムの強化

Web 知的財産権と医療アクセスが困難な国における特許の考え方
<https://sustainability.ono.co.jp/ja/themes/102#927>

■ 希少疾患に対する取り組み(2022年7月29日現在)

製品名	適応症*	希少疾病用医薬品指定日	開発状況
オブジーボ点滴静注	悪性黒色腫	2013.06.17	承認済
	ホジキンリンパ腫	2016.03.16	承認済
	悪性胸膜中皮腫	2017.12.01	承認済
	原発不明癌	2021.3.11	承認済
デムサーカプセル	褐色細胞腫におけるカテコールアミン分泌過剰状態の改善並びにそれに伴う諸症状の改善	2015.05.25	承認済
カイプロリス点滴静注用	再発又は難治性の多発性骨髄腫	2015.08.20	承認済
オノアクト点滴静注用	生命に危険のある下記の不整脈で難治性かつ緊急を要する場合：心室細動、血行動態不安定な心室頻拍	2016.08.24	承認済
メクトビ錠	NRAS又はBRAF ^{V600} 遺伝子変異陽性の悪性黒色腫	2013.12.04	承認済
ピラフトピカプセル	BRAF ^{V600} 遺伝子変異陽性の悪性黒色腫	2013.12.04	承認済
ベレキシブル錠	中枢神経系原発リンパ腫	2019.08.20	承認済
	原発性マクログロブリン血症及びリンパ形質細胞リンパ腫	2019.11.19	承認済

* 希少疾病用医薬品指定を受けた際の効能又は効果

医療アクセス改善を目指した医薬品開発

患者数が少なく治療薬の開発が進みにくい希少疾患について、自社創業やライセンス活動を通じて医薬品の開発や提供に取り組んでいます。また、小児患者さんには、小児のために適切に評価された医薬品が用いられるべきであると考えて医療アクセス改善を目指し、適応取得に取り組んでいます。

難病を対象とした創薬研究については、産学連携のもと、新たな治療選択肢の提供に向けて活動しています。慶應義塾大学、高知大学、岩手医科大学、医薬基盤・健康・栄養研究所、田辺三菱製薬株式会社、第一三共株式会社とともに、免疫炎症性難病を対象に創薬研究を行うことを目的に、2018年に「免疫炎症性難病創薬コンソーシアム」を発足しました。本コンソーシアムから得られる成果が、免疫炎症性難病に対して高い有用性を持つ次世代医薬品の創製につながり、患者さんや医療従事者への新たな治療選択肢の提供を可能にすると考えています。

■ 小児に対する適応取得の取り組み(2022年7月29日現在)

製品名	適応症	開発状況
オノンドライシロップ	気管支喘息 アレルギー性鼻炎	承認済
イメンドカプセル	抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)(遅発期を含む)	承認済
プロイメンド点滴静注用	抗悪性腫瘍剤(シスプラチン等)投与に伴う消化器症状(悪心、嘔吐)(遅発期を含む)	承認済
オレンシア点滴静注用	多関節に活動性を有する若年性特発性関節炎	承認済
デムサーカプセル	褐色細胞腫のカテコールアミン分泌過剰状態の改善	承認済
オブジーボ点滴静注	再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫	承認済
オノアクト点滴静注用	心機能低下例における頻脈性不整脈(上室頻拍、心房細動、心房粗動)	申請中

ONO SWITCHプロジェクト

当社では、医療システム支援と働き方改革の両方を推進するための取り組みとして、2018年8月よりONO SWITCH プロジェクトに取り組んでいます。本取り組みは、働き方改革の推進により削減した時間外手当に応じた金額を医療に関係するNPO・NGOに寄付する取り組みで、働き方改革の推進および世界の医療と健康に貢献し、「病気と苦痛に対する人間の闘いのために」という企業理念の具現化をより一層推進することを目的としています。

プロジェクトの名称は、Save the World by our work style Improvement and CHange(わたしたちの働き方の改善と改革を通して世界を救う)の大文字部分を抜粋し、SWITCHと付けました。働き方をスイッチする、働き方改革で得られた原資を寄付にスイッチする、働き方見直しのスイッチを入れるという意味も込めています。本プロジェクトでは寄付先とのパートナーシップにより、医療アクセスの改善および医療基盤の改善に取り組んでいます。

Web ONO SWITCHプロジェクト
<https://sustainability.ono.co.jp/ja/themes/102#929>

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金への参画

当社は、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)に2018年に加盟しました。GHIT Fundは、マラリア、結核、顧みられない熱帯病などの市場性の低い疾患に対する治療薬、ワクチン、診断薬などの新薬開発に対して投資を行う国際的な非営利組織で、日本政府、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、ウェルカム・トラスト、国内外の民間企業から資金拠出を受けています。先進国と低所得国間における健康格差是正を目指し、GHIT Fundの投資により開発される治療薬、ワクチン、診断薬の価格は、「無利益・無損失(No Gain, No Loss)」の原則に基づき決定されます。これらの取り組みと考え方に共感し、当社は、GHIT Fundへの資金拠出を実施しています。GHIT Fundへの参画を通し、低所得国の医療アクセス改善に向けたパートナーシップ形成を強化しています。

■ ONO SWITCH プロジェクトの支援先(2021年度)

パートナー (当社が支援している 活動地域)	取り組み内容	
	2021年度計画	2021年度結果
世界の子どもに ワクチンを 日本委員会 (ブータン)	DPT(ジフテリア/百日咳/破傷風) ワクチン53,500人分の提供	2歳児の96%がDPTワクチンを接種しました(目標接種率は95%以上)。遊牧民の子どもたちなどへの出張ワクチン接種も計画的に行うことができました。
	B型肝炎ワクチン9,000人分の提供	新生児の96%がB型肝炎ワクチンを接種しました(目標接種率は95%以上)。
	TD(破傷風/ジフテリア)ワクチン 69,482人分の提供	児童の96%と妊婦の92.8%がTDワクチンを接種しました(目標接種率は95%以上)。また、学校などでの集団接種も計画的に行うことができました。
	保冷库5台を提供	当社で支援したワクチン保存用の保冷库は5つの施設に設置されて継続して使用されています。
ジャパンハート (カンボジア)	新生児の黄疸早期発見のための検査機器と黄疸の光線治療器等の寄贈	寄贈した検査機器は分娩後入院した赤ちゃん全員の検査に、光線治療器は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により入院受け入れを中止している期間には、連携している公立病院でビリルビンが気になる赤ちゃんにも使用されました。ジャパンハートからは、「寄贈した測定器を使用し、安全の確認を行うことができました。測定器での測定値をもとに不要な採血を避けることができている。また、光線療法を開始した後の評価もしやすくなりました。ビリルビン上昇を予防することができています。これまでに使用していた機器と比べて中央値や履歴などが確認できるようになり使用しやすくなりました。また、入院患者53名に加えて、複数の外来患者さんでも測定することができました」との報告をいただいています。 新たに寄贈したインファントウォーマー(開放型保育器)は、温まるまでの時間がこれまで使用していたものよりも短く、そして処置する面積が広いので、とても使いやすく処置がしやすくなりました。産婦人科医の滞在時には帝王切開時のベビーキャッチなどでも使用しています。
	生後間もなく呼吸のサポートや体温管理が必要な新生児への治療を現地の医療者だけで実施できるようトレーニングを実施し習得できるようにします。	生後間もなく呼吸のサポートや体温管理が必要な新生児への治療を現地の医療者だけで実施できるようトレーニングを実施しました。現地の医療者3名が新生児に対し、適切な呼吸のサポートや体温管理ができるようになりました。



■ ONO SWITCH プロジェクトの支援先(2021年度)

パートナー (当社が支援している 活動地域)	取り組み内容	
	2021年度計画	2021年度結果
ジャパンハート (カンボジア)	医療者を目指す学生教育支援	2018年度から支援しているカンボジア人看護学生は、2021年11月15日に4年次へ進級しました。現在は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オンラインでの授業を継続しています。 彼女は成績が優秀なだけでなく、授業のない日には医療活動のボランティアにも積極的に参加されています。今はまだ医療従事者ではないものの、「医療の届かないところに医療を届ける」ため、学生のうちからできることを探し、とても頼もしい存在に成長しています。
	ジャパンハート子ども医療センター周辺の環境整備(雨期の衛生環境の改善)	ジャパンハート子ども医療センター周辺の庭が整備されておらず、例年、雨期になると水溜まりができます。長期間水が溜まることで、蚊の発生の原因にもつながります。また、道がぬかるむことで患者さんや付き添い家族の方の足が汚れやすくなり、院内の床も汚れてしまいます。これを解消するために、水が溜まりやすい場所から下水道までの水を引く水路を作るとともに、病院前の砂利道を舗装することで、病院周辺の衛生環境を改善します。
	助産師および補助助産師へのスキル・モニタリング(2回目)	2021年2月以降、ミャンマー国内情勢は厳しい日々が続いており、計画された助産師および補助助産師へのスキル・モニタリングと助産師の卒後研修および補助助産師のリフレッシュ研修は実施することができず、次年度へ延期することになりました。当初の計画に代わって、地域住民と保健サービスをつなぐ橋渡しをする母子保健推進員(ボランティア)の育成を行いました。
ピープルズ・ホープ・ジャパン (ミャンマー)	助産師の卒後研修および補助助産師のリフレッシュ研修	2022年3月、妊婦健診、新生児のケア、妊娠期の危険兆候などに関して、ボランティアに対する研修を2回に分けて実施し、13村60名の母子保健推進員を育成しました。3回目は2022年5月に実施される予定(6村25名)です。なお引き続き、ニーズと安全が確認された村から順次育成していきます。育成された母子保健推進員は、安全を確保しながら保健教育や妊産婦の家庭訪問など、一人ひとりの妊産婦に寄り添った活動を行っています。
		2020年度に引き続き、2回目のスキル・モニタリングを実施し、学習した知識やスキルが臨床の現場で活かされているか、その定着度と改善度を測定します。さらに現地のニーズに応じて母子保健推進員の育成なども予定しています。



母子保健推進員の村での活動の様子
(注) 画像はイメージです。2019年8月撮影

2020年度から支援していましたFuture Code(支援地域:バングラデシュ)の活動は新型コロナウイルス感染症の影響により、国の規制が厳しく予定より遅延していました。新設を予定していた病院が2021年12月にオープンし、当社はその施設へPCR検査機器を寄贈しました。2022年5月10日時点で新型コロナウイルス感染症を診断するためのPCR検査を合計31件実施しています。そのうち陽性と診断された12名には治療を行い、陽性者における死者数は0名でした。PCR検査を実施した患者のうちの61%の貧困層には無償で治療を行っています。